

挑む!

女子野球監督

きった めぐみ

橘田 恵さん(33)



追い続ける「白球女子」の道

大阪府北部の中学生向けのクラブチームと履正社高校、履正社医療スポーツ専門学校という三つの女子硬式野球部で指揮をとる。春先には入部したい子と親の見学が相次ぎ、希望者全員を受け入れられないほどだ。「私が選手だったころには考えられなかった」

3歳上の姉が女子野球チームに所属していた影響で、小学1年から軟式野球を始めた。中学はソフトボール、兵庫県立小野高校で硬式野球部の門をたたくが正式部員になれず、練習生とし

兵庫県三木市生まれ。仙台大時代は公式戦に出場し、1打数1安打1犠打を記録。国際野球連盟の技術委員として、海外の女子野球普及にも尽力する。

て男子にまじって白球を追った。

女子を受け入れてくれる野球部を探して仙台大学へ。さらに道を切り開くため、「卒業したら野球ができなくなる」と英文でつづった手帳を海外の女子野球関係者に見せて歩き、豪州のチームから声がかかった。4年のときに豪州女子リーグに挑み、全豪大会で遊撃手として最優秀選手に輝いた。

23歳で指導者に転身した。埼玉や宮崎の学校で経験を積む傍ら、体育大学でコーチングを学ぶ。2013年、創部2年目の履正社医療スポーツ専門学校を全国大会優勝に導いた。

日本女子プロリーグが開幕した6年前と比べ、女子が野球をする場は5倍に増えたとされる。「指導者や審判などの育成が急務。選手以外でも野球と関わっていける道をつくりたい」

文・鈴木健輔 写真・伊藤菜々子

記者から

夢の中でも野球をして、起きると疲れているとか。全力プレーで女子野球界を引っ張って。